

●シリーズ●わが町の文化財へ51

世羅町天然記念物 ネズ

昭和16年4月16日指定

ネズはヒノキ科の植物で、日当りの良い乾燥した山地に生える常緑針葉小高木で、本州、四国、九州、朝鮮半島、中国北部、ウスリー地方にかけて分布し、県内では沿岸部から中国山地まで広くみられます。地方名は「ムロノキ」・「モロギ」と呼ばれ、材質がすぐれ、建築、器具材などによく利用されます。雌雄異株で、球果は緑色、翌年以降に黒熟します。この地方ではとくにアカマツ林内に多く、希に直径1mを超える巨木に達することがあります。

このような巨樹は、境界木や信仰の対象として残されていることが多く、上津田のネズ（ムロノキ）も、鳶の子堂と呼ばれる辻堂の傍にあり、やはり古くから保護されてきたものでしょう。とくに根廻り周囲が4.6mに達し、内部にはすでに空洞が生じているが、この地方では希にみる巨木で、地域の歴史を語りつぐ生き証人としてこのまま保護してゆきたいものです。

データ

現状（大きさ）
根廻り周囲 4.6 m
きょうこうかんい
胸高幹囲 2.1 m
樹高約 16 m
樹齢推定約 300年



●シリーズ●わが町の文化財へ52

世羅町指定重要文化財

経塚石塔

きょうつかせきとう

昭和59年10月9日指定

定光地谷の東山すそに幅6.3m・奥行き7.2m・高さ2.45mの長方形の石囲いがあり、その中央に高さ70cmの石積みがあり、その上に本塔が建っています。

花崗岩製で、全高1.25m、五輪塔の水輪部が方形になっており、地輪高20.5cm、水輪高42.5cmで内部を長方形にくり抜いてあります。奥壁に阿弥陀如来の坐像が刻出しており、また、水輪部左の輪郭に「享禄二年（一五二九）十一月十日」の陰刻があります。

石室前面の両端にほぞ穴があり、元は木製の観音開きの扉があったと推定されています。

この塔は、高さ約2mばかりの横積みの古い石垣に囲まれており、当石垣は享禄頃（一五二八〜一五三二）のものと同定されます。

なお、この塔の近くには割庄屋平野家（屋号定光地）の墓所があり、墓碑の中には江戸時代初期の寛永年記の墓もあります。

